

令和４年度 県立石岡商業高等学校自己評価表

目指す 学校像	生徒の人格を重んじ、地域社会の要請に応えながら激しく変化する社会に柔軟に対応できる力を育むと共に、社会に有為な調和のとれた人間の育成に努める。				
昨年度の成果と課題		重 点 項 目	重 点 目 標	達成状況	
コロナ禍のため、長期休校、学校の教育活動の大幅な変更や縮小などが続いたが可能な限りの対応をし、生徒職員ともによく頑張った。ICTを活用した授業改善が大幅に進んだ。商品開発ではいばらきフラワーパークと石岡商業高校による地域活性化を目指した取組など、制限された環境の中で、実践的な授業も充実させようと工夫した。資格取得では、全商検定１級６種目以上合格など健闘した。上位資格取得率の更なる向上が望まれる。 進路面では、進学・就職ともに学校斡旋希望者合格100%。コロナ禍が就職・進学に及ぼす影響が懸念されたが、綿密で丁寧な指導により、商業科の特長を活かした大学進学や金融機関等への就職で実績を残すことができた。各種ガイダンスや企業訪問・学校見学が中止となったが、オンライン等形態を工夫して実行した。今後もコロナ禍での進路指導の工夫、生徒の意識啓発のための工夫が求められる。 生徒指導では、服装・頭髪・登校指導を定例で行い、基本的な生活習慣の確立に努めた。遅刻や問題行動は引き続き減少傾向だが、SNSの活用状況に課題が残る。SNSマナーの徹底と人間関係構築能力の育成が必要である。 部活動では、大会の中止・縮小が続く中、弓道部のインターハイ出場、少林寺拳法部の関東大会出場をはじめ、各部ともに感染症対策をしながら、熱心に活動した。学校行事も中止が続く中、内容を縮小して実施した桐商祭は生徒主体で熱心に取り組む姿が見られた。地域交流活動も、市主催のイベントへなど可能な限り参加した。今後更に生徒個々の活躍の場を創出する取組が必要である。 コロナ禍３年目、教育活動の充実に向け創意工夫が必要である。各教科等の特質を踏まえたICT活用、探究を軸とした学びのスタイル変革も急務である。進路実現に向けた基礎学力の向上と規範意識の高揚を図り、生徒の自己充実感を高められる機会を創出することで、地域から信頼される明るい学校づくりに努めたい。まず、感染症対策の徹底、働き方改革など生徒・教職員の健康と安全に配慮した環境づくりが不可欠である。		１ 授業の工夫・改善を図り、主体的に学習に取り組む態度と確かな学力を育む	①指導方法の工夫・改善を図り、基礎学力の向上を図る。 ②資格取得を通して実践的な学力を養成し、希望進路を実現する。 ③学習場面に応じたICT活用の推進。 ④探究を軸とした学びのスタイルを重視し、問題解決型学習の機会を創出する。	A	
		２ 規範意識を醸成し、基本的な生活習慣を確立する	①様々な活動を通して、規範意識・社会性・思いやりの心を育てる。 ②面談や教育相談を活用し、生徒理解を深め、信頼関係を醸成する。	B	
		３ 組織的・系統的なキャリア教育を推進する	①キャリア教育を推進し、進路意識の高揚と目標実現のための実践力を養う。 ②実習などの体験な学習を通して、協力・協働していく力を育成する。	B	
		４ 特別活動の充実を図り、豊かな心を育む	①特別活動を通して、心の居場所となる学級・学校づくりを推進する。 ②生徒会、部活動を活性化し、リーダーとなる人材を育成する。	B	
		５ 地域や保護者から信頼される学校づくりを推進する	①中学校や地域との連携・交流活動を推進し、相互理解と協力関係の醸成に努める。 ②学校通信、ホームページや学校公開などを通して、積極的に情報を発信する。	A	
		６ 安全で安心な教育環境づくりと、教職員の働き方改革を進める	①感染症対策はじめ、生徒、教職員の健康と安心安全に資する教育環境づくりを図る。 ②働き方についての教職員の意識改革を進める。	A	
三つの方針		具体的目標		評価	次年度への主な課題
「三つスクールの方針」ポリシー	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	①一人ひとりの生徒の個性を尊重し、のびのび学び、未来を切り拓く力の育成 ②地域社会の要請に応えながら激しく変化する社会に柔軟に対応できる力の育成 ③社会に有為な調和のとれた人間の育成		B	グループワークなどの活動を通して実践力や協調性を育む学習機会の充実
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	①商業高校ならではの、役立つ技術・確かな資格を生かした、生徒の進路希望を実現 ②企業人に必須のビジネスマナー・規範意識を学び、企業が求めるコミュニケーション能力を育成 ③組織的・系統的なキャリア教育を実践し、生徒の進路意欲を引き出し、目標の実現		B	ビジネスに関する課題を発見し解決策を探究する学習の重視
	「入学者の受入れに関する方針」 (アドミッション・ポリシー)	①高校から新しく学ぶ商業に興味関心をもって意欲的に学ぶ生徒 ②簿記やコンピュータ及び英語に関する資格取得にチャレンジする生徒 ③学校行事や部活動及びボランティア活動に積極的に取り組む生徒		B	学校説明会や公開授業、HP等を通じて、学校が期待する生徒像を積極的に明示する
評価項目	具 体 的 目 標	具 体 的 方 策		評価	次年度への主な課題
教科指導	基礎学力の定着、学習意欲の向上を図る。	知識・技術等の定着を助けるAIDドリル等を活用する。１－③		B	生徒の自主性と学習意欲を引き出すICTの活用とデジタル教材を活用した場合の生徒一人一人の学習進捗状況の可視化
		教科ごとに学習におけるRPDCAサイクルを確立し、確かな学力の定着を図る。１－①④		B	
		ICT機器を活用した個別最適な学びと、協働的な学びを行うことで主体的・対話的な学習機会の充実を図る。１－①③		B	
		職業資格等の資格取得奨励を通じた学習意欲の向上を図る。１－②		A	
		科目の特性に応じた語彙の習得を図り、情報を的確に理解し効果的に表現していく機会を設ける。１－①④		A	
特別活動	キャリア教育の充実	地域や企業と連携した学習活動や体験活動を積極的に取り入れていく。３－②		B	部活動の活性化や生徒会活動の充実という点で一定の成果を残せたが、学校行事の感染予防についてより徹底できるようにしたい。
	部活動の活性化と生徒会活動の充実を図る。	部活動の加入率を上げるとともに、生徒会活動を活性化する。４－②		A	
	感染予防に配慮して、文化的・体育的学校行事の充実を図る。	感染症予防の工夫や配慮をしながら文化祭・クラスマッチ等を実施し、感性を育て、クラスの連帯意識を培う。４－①⑥－①		B	
	キャリアパスポートの充実をはかる。	定期的に自己の生き方や進路に対する見通しと振り返りを行うことで、新たな学習や生活への意欲につなげる。３－②		B	
	生徒の自発的活動の促進を図る。	生徒会活動及びホームルーム運営等で、生徒の自発的活動の促進を図り、適切な指導、援助を行う。４－①		B	

生徒指導部	基本的生活習慣の確立 １．頭髮・服装 ２．遅刻 ３．礼儀	学校生活の場面で、我慢すること、辛抱する気持ちを育成していく。２－①	C	B	・ ツーブロックカットが認められたことにより急激に頭髮の自由度が高まったため、高校生として適切な髪型かどうかの判断をどのようにすればよいか、新たな基準作りが必要であるが、非常に難しい。
		生徒の人格、立場を認めた上で、粘り強く指導する。２－②	A		
		学校・生徒間、学校・保護者間の連絡を密にし、家庭での指導に協力してもらう。２－②	A		
		登校指導表・頭髮チェック表・異装願い・遅刻調査を行い段階的に指導する。２－①	A		
		体罰に頼らない指導を心がける。１－①	A		
	交通安全の徹底指導	H R や集会、講演会などで年間を通して指導していく。２－①	A		
	１．原付バイク	年間指導計画を立てる。２－①	A		
	２．自動二輪車	定期的な見回りや、地域との密接な連絡を図っていく。５－①	B		
	３．普通乗用車	３年生の11月1日以降、自動車教習所を訪問し、情報交換を重ねる。５－①	E		
	非行の未然防止	日頃から生徒の様子をよく観察し、非行の兆しを見逃さないようにする。２－①	A		
	１．喫煙	問題行動が発覚した場合は、保護者と連絡を取り、生活習慣の改善を促していく。また、講演会を実施する。２－②	A		
	２．飲酒				
進路指導部	３．無届アルバイト	アルバイトをする際は、必ず手続きをするように指導する。２－②	A	B	・ 社会の状況に応じた進路行事の計画。 ・ ステディサブリの取扱いと活用方法 ・ 進学希望者の指導の充実
	４．無断外泊	学校・生徒間、学校・保護者間の連絡を密にし、保護者を交えての指導を行う。２－②	A		
	※クラスマッチ・石岡祭礼				
	教育相談				
	１．不登校	早期の発見を心がけ、面接、家庭訪問、S C や県教育研修センター、外部医療機関と連携し対応に当たる。２－②	A		
	２．指導拒否				
	３．長期欠席				
	４．いじめ	担任が一人で問題を抱え込むのではなく、学年、生徒指導部等、チームでの対応とし、段階的に指導していく。２－①	A		
	能力・適正に合った進路を決定させる。	組織的・系統的なキャリア教育を実践し、進路意識を高める。３－① 進路講話、ガイダンス等の開催、または進路情報の提供等を通して進路に対する考え方や態度を早期から養う。３－②6－③	A		
	上級学校への進学を推進する。	基礎学力の向上を図るとともに志望校に応じた指導を行い、合格に結びつける。１－① 資格を生かした進学についての情報提供に努める。１－②	B		
	正しい職業観・勤労観の確立を図る。	基礎学力や資格取得等の能力向上を図る。１－① 積極的に職場見学等の就職活動を行う指導をし就職内定に結びつける。また面接指導の充実を図る。１－②	B		
教 務	授業時間を確保する。	行事の実施日が特定曜日に偏らないように年間計画を立てる。１－①	A	A	・ ３観点による学習評価の研修を継続して実施する。 ・ 学校HPの充実
		出張、年休時の授業交換を確実にし、授業時間の確保に努める。１－①	A		
	充実した教育課程を編成する。	基礎科目に重点を置き、社会の変化と生徒の多様な進路に対応できる教育課程の編成に努める。１－① 「社会に開かれた教育課程」家庭・地域との連携・協働を図った教育課程の編成に努める。１－① 学校評価（自己評価、学校関係者評価等）の充実と活用に努める。５－①	A B		
	広報活動の充実を図る。	本校教育活動の紹介を、ホームページにおける動画配信・広報紙等を利用し情報の提供に努める。５－①② 生徒、保護者、地域の声を受け止め、開かれた学校づくりを推進しながら、情報提供を積極的に行なう。５－①②	B B		
	魅力ある教育環境づくりの推進。	1人1台端末とクラウドを活用した新たな学び、情報モラル教育に関する研修を積極的に行う。１－③ 業務等の効率化を図るため、校務のICT化を推進し、働き方についての意識改革を進める。６－②	B A		
保健厚生	心身ともに健康でたくましく生きることができる人間の育成をめざし、健康の保持増進に努める。	心身の健康状態の把握に努め、生徒が自主的に自分の健康を保持増進できるよう適切な指導・援助を行う。２－①	A	B	・ 朝の検温の徹底 ・ 教室での4点換気の徹底 ・ 消防と連携した避難訓練
	学年・担任との連携を図り、健康に問題のある生徒の指導と管理に努める。	学年との連携を図り、積極的に健康相談を実施する。２－② 教育相談をカウンセラーと協力しながら充実させる。２－②	B A		
	地域と連携した、防火防災に対する心構えを身につける。	早い時期に避難経路を理解させる。地域と連携した実践が出来るようにする。５－②	B		
	衛生環境を整え、感染症対策に努める。	朝の検温やアルコール消毒など、登校時の保健体制の取り組みを継続させる。６－①② 全学年にマスクの着用・手洗い・うがいを励行させる。６－①	B		
図 書 館	授業等での利用拡大を図る。	各教科から生徒に薦める図書をあげてもらう。１－①	B	B	・ 図書館および視聴覚室の利用拡大に努める。 ・ Wi-Fi設備やエアコン設置など環境改善に取り組む。
	図書委員会活動の活性化に努める。	図書委員会を適宜に開催する。４－②	B		
	図書館利用の振興と図書館行事の充実に努める。	新着図書を「図書館だより」等で広報する。１－①	A		
	視聴覚機材と教材の充実に努める。	現在保有の視聴覚機材・教材等のより一層の利用促進を図る。１－①	B		
	ICT機器管理	各種ICT機器の最新の環境づくり及び適切な管理（更新等も含む）を行う。６－②	A	B	ICT活用に係る研修の充実
	ICT研修等	ICT活用・情報セキュリティに関する研修・報告の実施、消耗品等の管理を行う。２－①	B		
渉 外				B	・ PTA組織の改組と役員の確保 ・ PTA、同窓会、後援会組織の連携を図る
	PTA、後援会、同窓会との連絡を密にする。	各種行事への出席者を増やす方法・内容を充実させる。 PTA・後援会・同窓会との親睦を図るとともに、効率的な運用を目指す。	B B		
	PTA活動の活性化を図る。	総会・支部総会・理事会・生徒指導委員会・広報研修委員会の見直しを図る。	B		

第 1 学年	基本的生活習慣の育成に努める。	高校生活が無事スタートできるよう、入学後オリエンテーションを実施する。 2－②	A	B	・ 基本的生活習慣の確立 ・ 学習習慣の確立や自主的に取り組む学習の継続 ・ 他人を思いやる心の育成 ・ コミュニケーション能力の育成 ・ 進路実現に向けた意識の向上
		生徒の個人面談を年 3 回程度実施し、生徒理解に努めるとともに必要に応じて関係機関と協力し、健全な高校生活が送れるように支援する。 2－②	B		
		登校指導や H R において挨拶の励行や、正しい言葉遣いやきちんとした制服着用の徹底を図る。 2－②	B		
	将来を考える態度を養い、早期の進路決定を促す。	頭髮・服装指導を徹底して行い、身だしなみを整えさせる。 2－① 3－①	B		
		進路ガイダンスを実施し、進路に関する意識の高揚を図る。 3－①	A		
		H R や個人面談を通じて自分の将来を考えさせるとともに、その実現に向けて、部活動の参加や資格取得への取り組みを促すなど学校生活の充実を図る。 3－①	A		
	学習指導の充実を図る。	教科担任と連携し、授業態度や課外への出席状況など生徒の実態把握に努める。 1－①	A		
第 2 学年	規律ある生活態度を身につけさせる。	I C T 教材による基礎学力の更なる向上に努める。 1－① 1－②	B	C	・ 生徒に自覚を持たせ、学校生活を送らせる。 ・ 遅刻を減らす。 ・ 学習意欲が希薄な生徒への効果的な指導。 ・ 進路実現に向けた指導。 (礼法、所作、小論文、作文、一般教養等) ・ コミュニケーション能力の育成。
		将来を見据え、豊かな人間関係心を育む。	A		
		学校行事を通じて協調性を大切にする心を育てる。 2－①	A		
		L H R や総合的な探究の時間(道徳)を通じて、他人を思いやる心の育成に努める。 2－①	B		
	進路実現に向けての目標を明確にさせる。	登校指導や H R において挨拶の励行や、正しい言葉遣いの徹底を図る。 2－②	C		
		集会や遅刻指導等で、時間を守る習慣を身に付けさせる。 2－②	B		
		服装・頭髮をきちんとさせる。 2－②	C		
		清掃を徹底し、生活環境の美化に努め、感染症予防に努める。 2－② 6－①	B		
	学習指導の充実を図る。	進路ガイダンス・インターンシップ等の様々な機会を通して、進路に対する意識の高揚を図る。 3－②	B		
		H R や個人面談等で進路目標の早期決定に向けての指導にあたる。 3－②	B		
		進路希望の実現に向けて、上級資格取得の推進を図る。 3－②	B		
		教科担任と連携しながら、授業を大切にし、真剣に取り組む姿勢を育てる。 1－①	B		
	自他を大切にし、豊かな心を育てる。	スタディサプリやクラスルームなどの ICT を活用し、基礎学力の向上に努める。 1－①	C		
		検定試験に向けての課外授業等に積極的に参加させ、上級資格取得を目指す。 1－①	B		
		L H R や修学旅行等を通して、他人を思いやる心の育成に努める。 2－①	B		
		清掃・H R 等を通じて、物を大切にする心を育てる。 2－①	B		
第 3 学年	規律ある生活態度を育成する。	H R や集会等を通して、SNS の利用方法や社会マナー、交通ルール等を身につけさせ、豊かな心の教育に努める。 2－①	B	A	・ 学校推薦を受ける生徒の事前・事後指導と意識の高揚を図る ・ 一般常識や適性検査に対して早めの準備と対応をする ・ 基礎学力の定着と履歴書や小論文、志望理由書等の文書作成の能力を身につけさせる
		服装・頭髮指導の徹底を図る。 2－①	B		
		時間厳守・挨拶・正しい言葉遣いを奨励する。 2－①	A		
	進路指導の充実を図り、希望進路の実現を目指す。	清掃を徹底し、感染症の予防に努める。 6－①	A		
		H R や個人面談等で進路意識の高揚を図り、進路目標の早期決定及び希望進路の実現に向けて指導にあたる。 3－②	A		
		就職や進学試験における面接や作文、適性検査への対応を図る。 3－②	B		
	学習指導の充実を図る。	日々の授業や I C T 教材を活用し、基礎学力の向上を図る。 1－①	A		
		上級検定資格取得に向け、積極的に取り組ませる。 1－②	B		
	心の教育の推進を図る。	特別活動を通して、自他を大切にし、他人を思いやる豊かな心の教育に努める。 2－① 5－①	A		
		H R や学年集会を通して、社会マナーや交通ルールを身につけさせ、その重要性を理解させる。 2－①	A		

教	国語	基礎学力の向上を図る。	漢字力・語彙力の向上を図り、実社会に必要な知識や技能を身に付けさせる。１－①	A	A	・カリキュラム移行に伴い、「読むこと」とおした指導の充実に取り組む。 ・単元ごとの多様な評価方法を検討し、実施していく。
			机間指導等によるきめ細やかな指導を行い、その成果と課題を明確にし、次年度への改善策を検討する。１－①	A		
			自宅での課題に取り組ませることで、学習習慣の定着を図る。１－①	A		
		思考力を培い、豊かな表現力を身に付ける。	多様な教材に触れることで、多くの価値観を学び、自身の考えを深めるきっかけにする。１－①	B		
			書くことの体験を通して、他者の意見を踏まえたり、自分の意見を述べたりする力を高める。１－①	B		
			活発な言語活動を行うことで、多様な意見からの合意を形成する過程などを学び、それを生かす能力を養う。１－④	A		
	地歴公民	生徒が理解しやすい授業への改善に努める。	授業内容、方法、進度等について教科内で研究協議する。１－①	A	A	時事問題や日常生活の身近な事項だけでなく地域の事柄も教材として扱い地域への興味・関心を高める。
			I T を効果的に活用し、生徒の理解を深める。１－③	B		
		興味・関心を高め、学習意欲を向上させる授業の展開。	生徒の実態に即した教材の精選を行い、諸資料を活用したわかりやすい授業を展開し、学習意欲を高める。１－①	A		
			時事問題や日常生活の身近な事項も教材として扱い、興味・関心を高める。１－①	A		
	数学	自ら学ぶ意欲を高め、理解を深める授業の工夫。	自ら調べ、問題を解決する能力を高めるために、グループ学習やペア学習などを定期的に取り入れる。１－①	B	B	・ICTを活用した効果的な授業の研究を進める。 ・主体的・対話的で深い学びの指導法について自己研鑽する。
			理解度を確認するため、ノートおよび学習ノート、プリントの提出を実施する。１－①	B		
		常により良い授業への改善に努める。	授業目標に沿う授業計画を毎時間たてる。１－①	B		
			授業終了後に指導内容を点検し、気が付いた点を記録する。１－①	B		
	理科	基礎学力定着とその向上に努める。	定期的に、実践した授業の成果を含めて見直し、報告し合う。１－①	B	B	生徒の興味・関心を高める教材研究を進め、生徒の主体性を意識した授業を行う。
			教授法の改善を図る意味で、例題の扱い方や、取り扱う問題の精選のために、実践した授業への生徒の反応を確認し、評価し合う。１－①	B		
		「主体的・対話的で深い学び」のための指導の工夫に努める。	生徒同士で意見を交換したり、教えあったりすることで問題解決する姿勢を身に付けさせる。そのための、指導法について自己研鑽に努める。１－③	A		
		基礎学力の向上を図る。	普段の授業を大切にし、理解度の確認のため、ノート・ワーク等の提出を行う。１－①	A	B	生徒の興味・関心を高める教材研究を進め、生徒の主体性を意識した授業を行う。
	保健体育		指導内容を自然現象や生活体験に関連付けして、興味や関心を深め、理解度を高める。１－①	B		
		授業の改善に努める。	実験・観察、演習などの教材研究をすすめ、教科内で情報交換を行う。２－①	B		
			教員主体ではなく、生徒主体となる授業を展開する。１－③	B		
			I T、視聴覚教材、副教材や演習を利用して生徒の興味関心を引き出し、学習意欲を喚起する。１－①	A		
	芸術	生涯を通じて継続的に運動が出来る資質や能力を育てる。	個々の生徒の能力や実態の把握に努め、生徒一人一人に応じた指導を工夫する。また、自ら体調を整え体力を高めることが出来る主体性の育成に努める。１－①	B	B	・生涯スポーツへの意識向上 ・男女共習の授業作り ・運動が苦手な生徒への授業作り ・ICTの活用と活動量確保のバランス
		健康・安全・環境への意識の向上。	ヘルスプロモーションの観点から、自ら適切な生活行動を選択・実践できるような健康への意識の向上と環境への配慮をし、改善していく努力が必要であることを理解させる。２－①	B		
			健康的な生活習慣が実践できるように意識を高めていく。２－①	B		
			興味を持つ題材の設定と教材の研究を重ねる。１－①	B		
	英語	興味・関心を高め、学習意欲を高める授業。	生徒が自ら創意工夫できる指導方法の工夫。１－③	B	B	タブレットを活用した教材研究を進める。
			生徒の実態に合った目標設定内容の工夫をする。１－①	B		
		生涯にわたり芸術を愛好する心情の育成。	鑑賞の時間を通し、日本、諸外国の文化を知り、芸術に関わる喜びを味わう。２－①	B		
			基礎学力の向上を図る。	B		
	家庭		単語テストや小テストをこまめに実施し、就職・進学に向けての基礎学力を身につけさせる。１－①	B	B	・パフォーマンステストの方法、評価基準の見直し ・ICT機器の効果的活用
		分かる喜びを実感する授業実践に努める。	各担当者が授業内容や方法等について研究協議し、授業に生かして行く。１－①	A		
			各種研修会に積極的に参加する。１－①	B		
		興味・関心を高める。	A L T とのチーム・ティーチングが全クラスでできるよう計画を立て、英語への興味・関心を引き出し意欲的に取り組ませる。１－①	A		
	商業	基礎的な知識・技術の習得。	体験活動や実験・実習をとおして、基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、実践的な態度の育成を図る。３－②	A	A	・学習指導の充実、コロナ過での被服実習や調理実習の指導強化・危険防止を考える。
		生徒の実態に応じた指導。	生徒の実態に応じて視聴覚教材の活用などにより個別指導を充実させ、生徒個々の生活の向上を図る。１－①	B		
		授業内容の充実。	生徒の実態に応じた指導法・教材の工夫。１－①	B	B	・課題研究の内容の改訂 ・座学でのICT活用 ・実践的体験的な活動の充実 ・科目横断的な学習の取組み ・「深い学び」を意識した授業展開 ・ビジネスに即した授業づくりの工夫 ・各学年での学びのつながり
			実際のビジネスに即した指導法・教材の工夫。１－①	B		
			I C T 教材を効果的に活用した授業を実践し、基礎・基本の徹底を図る。１－①	B		
		基礎・基本を徹底して習得させる指導法の工夫。１－①	基礎・基本を徹底して習得させる指導法の工夫。１－①	B		
		基礎科目の知識定着および検定試験合格率の向上。	生徒の実態に応じた課外等の実施。１－②	B		
			年間を通しての計画的な課外等の実施。１－②	B		
		上級資格取得の奨励。	習熟度に応じた指導法の工夫及び課外等の実施。１－②	B		
		出前授業の効果的実施。	近隣中学校を対象とした出前授業の効果的実施。５－①、②	B		
				B		
				B		

※評価基準：A 十分達成できている B 達成できている C 概ね達成できている D 不十分である E できていない